

当報告の内容は著者の著作物です。

Toolbox ワークショップ

開催日時：平成 22 年 7 月 11 日（日曜日）午前 10 時 30 分～午後 5 時

開催場所：AA 研 3 階マルチメディア会議室(304 室)

講師：中山俊秀（AA 研所員）、渡辺己（AA 研所員）、長崎郁（AA 研特任研究員）

ワークショップ概要：

本ワークショップはフィールド言語学・テクニカルワークショップの一環として、辞書やテキストなどの言語データの管理とテキスト分析のためのソフトウェア Toolbox の習得を目的とし、初心者を対象として行われた。受講者は大学院修士課程・博士課程の学生を中心とする 7 名であった。プログラムは以下のとおりである。

1. フィールド言語学ワークショップについて（10:30～10:40）
2. 講義：Toolbox とは（10:40～11:30）
 - 2.1. フィールドワークとデータ整理のワークフロー
 - 2.2. Toolbox の得意なこと苦手なこと
 - 2.3. 言語学系のソフトウェアについて
3. 実習の準備 - ソフトウェアのインストール・プロジェクトの開始（11:30～12:30）
4. 実習 1：Language Encoding, テキストの改行と番号の付与、辞書の入力、テキストの Interlinearize など（13:30--14:30）
5. 実習 2：グループワーク（14:30～17:00）

受講者は講義および実習 1 で、フィールド調査とデータ整理という一連の過程における Toolbox の位置づけ、その大まかな仕組みを理解した後、実習 2 で、実際に自分自身の研究対象言語のテキストを適切な形に整えて Toolbox で読み込み、形態素分析とグロス付与を自動的に行うまでを体験しながら学んだ。また、IPA など特殊文字の入力に困難を抱える受講者のために、多言語入力用キーボードユーティリティ、AAA+の使用法についても紹介を行った。

受講者からの感想：

ワークショップ終了後、受講者から次のような感想が寄せられた。

- ワークショップに参加して良かった点
 - 今までに入力したテキストファイルが使える、辞書を 750 エントリーも作ることができた点。
 - AAA+の存在がわかってよかった。
 - Toolbox が簡単になら動かせるようになった。それから、正規表現も勉強になった。
 - 使っているときに出てくる疑問を、講師の方や参加者の皆さんに気軽に投げかけることができた点。
 - 自分の研究している言語に特化した Toolbox の使い方が、ある程度できるようになったこと。それから、この言語をソフトウェアを使用して分析する際に注意すべき点が明らかになったこと。
 - 実習 2 ではほとんどつきっきりで教えて下さったので、大変理解しやすかった。
 - 実際に Toolbox を使用しているところを見て、さわりだけだが、Toolbox がいじれるようになったこと。また、Toolbox 以外のソフトウェアの情報も分かったことも良かった。

- ワークショップで改善すべき点
 - 時間がもう少し長めでも良かった。
 - 事前に説明を配るなどして、前説は短くし、実習時間を長くとれるようにした方が良い。各参加者がワークショップ前に Toolbox のおおまかなイメージを持っている状態にし、Toolbox を用いて各参加者が何をしたいのかを当日用いるデータとともに把握しておいた方が良かったのではないか。私の場合はスタンダードとは少し違うことをやろうとしたのでテキストを Toolbox に入れるまでに結構手間取りました。このような手間を省ける準備が要るかと思います。
 - 講師と参加者の数が合わなかった様な気がします。ヘルプを頼みにくかったです。講師の方々の負担も大きいだろうと思います。
 - 今回だけだとすぐ使い方を忘れるような気がするので、2 か月に一回くらい同じような勉強会をしていただけたら嬉しいです。

報告書作成：長崎郁（AA 研特任研究員）